

戦評用紙

大会名	平成26年度 第66回藤井杯・高野杯山形県高等学校バスケットボール選手権大会
-----	--

日時	2014年4月20日 12:45 ~	区分	山形県バスケットボール協会
----	--------------------	----	---------------

チームA				チームB
山形商業				山形中央
85	22	1Q	9	44
	29	2Q	13	
	21	3Q	14	
	13	4Q	8	
		延長		

【戦評】

白のユニフォーム山形商業は#4・5・6・7・8、黒のユニフォーム山形中央は#4・5・6・8・9がスタート。ディフェンスは山形商業がオールコートのマンツーマン、山形中央はハーフコートのマンツーマンでスタートする。両チームともしっかりとしたディフェンスのからリズムを作ろうとする。一進一退の攻防が続く中、山形商業が#4のドライブ、#6のインサイドから着実に得点を重ねていく。開始7分を過ぎたあたりで山形中央のチームファールが4つとなったところで、山形中央が一回目のタイムアウトを取る。この時点で白12-9黒と山形商業がリードする。しかしタイムアウト後もリズムは変わらず、インサイドアウトサイドとバランスよく攻める山形商業が徐々に点差を広げていく。第1ピリオドは白22-9黒と、山形商業が13点のビハインドをもって終える。

第2ピリオドは両チームとも同じディフェンスでスタートする。山形商業は#5のアウトサイドシュートや途中から出場している#10のシュートが連続で決まり、さらに点差を広げる。一方山形中央は、細かなメンバーチェンジをしながらリズムを変えようと試みるが、なかなか点差が詰まっていけない。#4のドライブや#6のインサイドで着実に点数を重ねていく山形商業に対して、アウトサイドのシュートが単発でしか決まっていけない山形中央は苦しい展開となる。白51-22黒の29点の差をつけて、山形商業がリードして前半を終えた。

後半は山形中央もオールコートでのマンツーマンディフェンスをはじめ。開始早々山形中央の3Pシュートが連続で決まり、点差を詰める。対して山形商業は#6#7のインサイドプレーを中心に攻撃を組み立て、再び点差を広げはじめる。4分が経過し、白61-30黒と点差が30点を越えた所で、山形中央が後半最初のタイムアウトを取る。ここからまた一進一退の攻防となるが、高さのある山形商業が、徐々に点差を広げていく展開となる。白72-36黒と36点の差を付けて第3ピリオドが終了した。

第4ピリオド両チームともここまでと同様のディフェンス。山形中央が連続で得点を決め、白72-40黒となったところで、山形商業がこの試合最初のタイムアウトをとる。その後はまた山形商業がペースを握り、徐々に点差を広げる。5分が経過した所で山形中央がタイムアウトをとるが、その後も山形商業ペースは変わらず、白85-44黒で山形商業が勝利を収めた。

戦評者

神位 裕介